

## 自主調査研究報告 [継続報告]

北海道の沿岸における海岸工学的な情報収集整理 (他2A-2-③)	大分類	他2A
	中分類	他2A-2

## 1. 目的

汀線を形成する海岸線は国土において重要な位置づけにあり、我が国にとって天然資源および海洋における再生可能エネルギーの開発ならび利用、海洋環境の保全、科学的知見の取得等の基点となり、極めて重要である。我が国は、地震、台風、低気圧、冬期風浪などの厳しい自然条件にさらされており、海岸においても、津波、高潮、波浪、海岸侵食などの影響を受けている。特に北海道では、オホーツク海を中心に流水の影響を受けており、世界的にも特異な海域といえる。一方、北海道において港湾や漁港、道路が隣接し人工的に作られた人工海岸、あるいは人工構築物を除く自然海岸は約56%であり、海岸に浜が発達していないエリアが半数となっている(環境省 自然環境保全基礎調査)。このため、今後の長期的な視点での国土保全や利活用という観点から、自然海岸と波浪や流水との相互作用について工学的な見地から整理しておくことが重要となる。

以上より、本研究では北海道の自然の海岸とりわけ浜や海岸に浜が発達していない海岸において、波浪や流水などの外力に対する耐久性の評価を行い、海岸工学的な見地から整理する。

## 2. 実施内容

外力の推定(海底勾配の整理)、北海道沿岸部の地盤(地質)構造の整理を行った。

### 2.1 ヒアリング調査

学識経験者、有識者へヒアリング調査を行い、研究の方向性について確認を行った。

### 2.2 海底勾配の整理

収集した海底地形図を用いて北海道沿岸部49箇所の海底勾配を確認し、波圧を受け易い箇所を整理した。

### 2.3 電子基準点の整理

北海道沿岸部の電子基準点及び1等水準点のデーターから地盤の変動状況を整理した。

## 3. 主要な結論

- ・流水の影響による海岸侵食の評価及び研究は行われていない。
- ・北海道の海岸線が形成された数千年～数万年前を調べると海岸線の地盤変動や地質状態が理解できる。
- ・産業技術総合研究所の日本シームレス地質図により各沿岸部の地質特性が把握できる。

## 4. 今後の対応

令和元年度及び令和2年度に実施した調査内容について再整理し、北海道の海岸線の歴史的な形成状況を取りまとめ、地盤構造を分類し海岸工学的な見地から整理する。